日蓮聖人

佐渡靈蹟

特254
26

SADOANHAISHA

始

特254
26

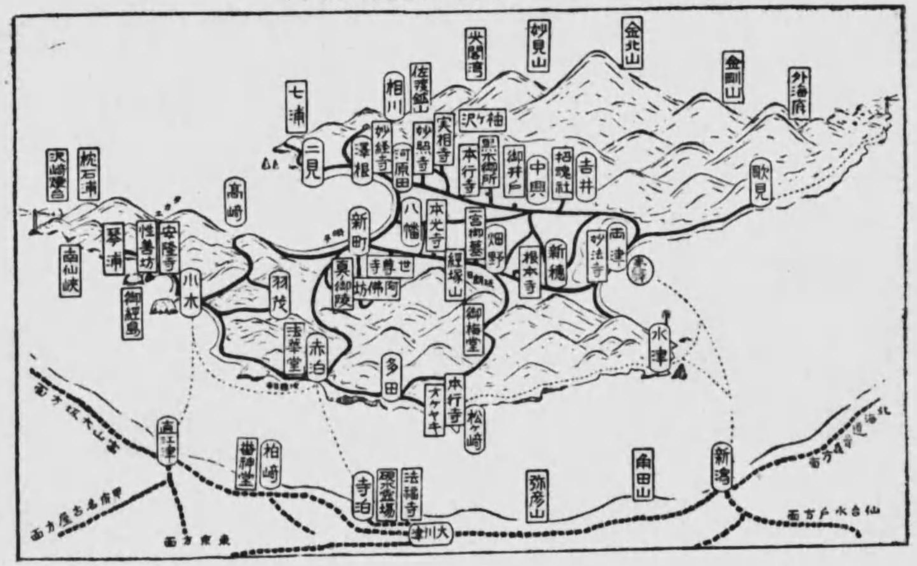
日蓮聖人
佐渡靈蹟

昭和十二年納本

日蓮聖人御肖像

日蓮大聖人之大願
願はくは我が身を
我が国の柱とな
願はくは我が眼を
日本の大船とな
願はくは我が心を
大海の大山とな

日蓮聖人佐渡御霊蹟案内



日蓮聖人佐渡御靈蹟

松崎山本行寺（佐渡國　松ヶ崎）

日蓮聖人　佐渡ヶ島へ御配流の際越後國寺泊港より御乘船　文永八年十月二十八日佐渡國松ヶ崎村鴻ノ瀬へ御着岸當國最初の御靈場で　其頃の草庵が本行寺と改まつたのである。

松崎神社（舊稱）春日大明神（松ヶ崎）

聖人の御船が寺泊を御出船の時　風波の爲越後の角田濱へ漂され　それより佐渡へ向ふ沖合で暴風に遭ひ此神に祈願したれば　其感應に因り鴻ノ瀬に御着船できたといふ。

越の海　八重の汐路を　分け來れば
始めて見ゆる　松崎の松

は　此時の御詠であると傳へられて居る。

題目鮑の由來

日蓮聖人の御船が　越後より佐渡ヶ島へ　御渡りの時惡者があつて　御船を沖中に沈させんとて　陰に船底に穴を明け　それへ栓をさし置いたが　そこに鮑がはい付　其難を除けた　聖人は其鮑に御題目を書いて　海中に放された　鴻ノ瀬の題目鮑とは　是である　其時御着船を喜び給ひ　御墨汁に水を添へ　磯邊の石に

御題目を御書きなされ　此佐渡ヶ島に妙經流布せんことを　表し給はれたといふ。

御　欅（松ヶ崎）

◘聖人御着岸の時　春日明神童子の形に現じ　聖人を此樹の空洞に誘ひ　御酒を勸められ　一夜を明されたと言ふ　靈蹟である。

星降の梅　御　梅　堂（畑野村　小倉）

◘文永八年十一月朔日　日蓮聖人は松ヶ崎を御立なされて塚原行へく途中　小倉山を越える時　小憩した御靈場て　そのをり　杖つき給ふ鎌倉より携へ來りし　越ノ郷の星降の梅の梢を　雪中にさし置かれたのが　文永十一年の春御赦免の際には　紅の花が咲き匂うたと言ひ傳へて居る。

御梅堂は寶暦三年　阿波國の人で常光妙光といふ夫婦の信者が來て　此樹で聖人の御像を作り一堂を建てゝ其像を安置されたのである。

塚原山　根　本　寺（新穗村　大野）

◘文永八年十一月朔日　日蓮聖人は松ヶ崎より此地に來り翌年の四月七日まで　謫居の御靈場で　天文廿一年大泉坊日成が開基である。

聖人は文永八年九月十四日　佐渡ヶ島へ配流と宣せ

られ新穗村の地頭本間六郎左衞門重連の預りとなり塚原の三昧堂に放置された　こゝは昔墓場であつた堂は一間四面の四壁あばらやで　雨雪も防ぐことも出來ず　蓑笠をつけて夜をあかしたが　日々の食料も乏しかつた　此時他宗の僧俗が　百方妨害を加へた　阿佛坊は聖人に歸依し　深夜食を饋り飢渴を救ひ　陰に陽に保護を計つたのである。

翌文永九年正月十六日は　國内及び近國の僧徒が此地に會合して聖人と法論を闘はしたが　聖人の爲に悉く論破された　これを塚原問答といふ　同年二月開目抄を作られこれ等を折伏された　この名は一切衆生の盲目を開くといふ　大慈悲心の命題であるといふ。

妙法華山　妙　照　寺（二宮村　一ノ谷）

◘本宗寺號最初の御靈場て　獨立本山である。

聖人は文永九年四月七日　塚原より此一ノ谷に移され同十一年三月八日まで配居の靈地である　新穗の地頭本間六郎左衞門重連の家臣　近藤伊豫守清久が監視して居られたが　清久の族　學乘坊日靜は　聖人の高德を仰いで　歸依深く　此所に庵室を建てゝ聖人を迎へた。

文永十年四月二十五日　聖人は青葉の雫を硯に湛へて觀心本尊抄を著し　七月八日には十界總歸命の大曼陀羅を書き給うた。

御松山寶相寺（二宮村　矢馳）

◎此地は法運發展の道場で　袈裟掛松の御靈場である。聖人は一ノ谷近藤清久の館に配居の間　毎朝此山に登りて　旭日を拜し　一老松を愛撫され　萬年の綠は我が妙法の榮に倣へと祝唱し　其木の傍で誦經された又此附近に靈泉が湧出で　御手を洗ひ給うたので　御手水の水といふ。

御松山の烏

◎或日御庵室の御庭に　頭の白き烏が飛んで來たのを　聖人は御覽になり　我流罪赦免あるべき瑞相にやと覺ゆるなりと皆の者に語られた　卽ち文永十一年二月十四日の御赦免狀は同三月八日に佐渡についたのである。

袖ヶ澤の本覺寺跡（一ノ澤）

◎或時　聖人が說法されて居ると　一人の天女が題目を請はれた　聖人が天女の白衣の袖に認めてやると　松の木から雲に乘つて　妙見山へ登つて仕舞つた。

妙見山

又聖人が塚原に居られた時　神童から與へられた　一枚の石を舐めて　飢渴を免れた　其神童が妙見山方面で消え失せたといふ　其石と同じものだと言ふのが今も同山から出るといふ。

硯水御靈場　御井戸堂（金澤村　中興）

◎一ノ谷　近藤清久の子　中興小次郎信重夫婦は　深く聖

人を信仰し此地に法華堂を建て屢々聖人を招待した聖人はいつも此井戸の水で御曼陀羅を書いて　信徒に與へられた御靈場である。

法華山　妙經寺（二宮村　中原）

◎信重の玄孫勝重は應永の年　御井戸の法華堂を改築し法華山妙經寺と稱し　中興より中原に移轉改造したのである　其後中興の舊地へ　建てられたのが　現在の御井戸堂である。

法敎山　本光寺（金澤村　泉）

◎當寺に御安置の　國寶正觀世音菩薩は　聖德太子の御作にして　順德天皇の御守本尊である。天皇中興村の地頭木間次郎入道安連に　觀音守護の御下命あつて　御物數個賜はられた　それで嫡子平十郎安重　次男平吾と共に　益々尊皇奉佛の志を起し平吾を剃髮させ　名を日性と改め大和房と號す。日蓮聖人滅後　日興上人に歸依した　卽ち當山の開祖である。

國府道場　世尊寺（眞野村　竹田）

◎當時は日蓮聖人の上足第三　日興上人の開基で佐渡宗門最初の道場である。第二祖下江房日增上人は俗名を遠藤藤四郎盛國と稱し

順德天皇に供奉し御遣詔に因つて出家剃髪　畑方村に一宇を創立し　釋尊の像を本尊として御冥福を祈る　文永九年日興上人の教化を受け弟子となり今の地に新堂を造立し　聖人より「令法久住山世尊寺」の號を賜りしといふ。

澁手靈蹟（眞野村　豐田）

◘日蓮聖人　文永十一年三月十三日　御歸りの際御一宿の靈場である（此處が國府入道の館の在りし處なりと）

蓮華王山　妙宣寺（眞野村　阿佛）

◘本寺は　古來北陸七ヶ國の法華宗門の棟梁と稱す。順德天皇供奉の臣　遠藤左衞門尉爲盛の開基にして天皇崩御の後入道して陵下に心喪を修すること三十年時人呼んで阿佛坊と稱す。其妻千日尼と共に　日蓮聖人の艱苦の狀を見兼ね　其保護に盡力しければ咎を蒙り住所を逐はれ　家財を奪はれ非常の辛酸を嘗めたが其の誠意終始渝らなかつた。文永十一年三月聖人御赦免となり身延山にあるや爲盛老歩三度詣でた　日得は聖人より賜はりた號である。

御經島（小木町　元小木）

◘文永十一年三月七日　日朗上人赦免狀を携へて直江津より小木へ渡航の際　暗夜で咫尺もわからなかつた　船は辛うじて元小木の沖合に漂ふ刹那巉岩に突破せられ

舟子は皆溺死した　上人一人岩頭に攀ぢ登り誦經して夜を徹したので　後世此名が殘つたのである。

性善坊の舊跡（小木町　元小木）

◘日朗上人が御難船の際　學法坊と言ふ禪宗の住僧に救護され御一泊なされ一舊跡で　又日蓮聖人御歸倉の際御船待ちせし御靈場である　大正十年全國信者の寄附金を仰ぎ上人御着岸の記念碑が建設された。

昌榮山　安隆寺（小木町）

◘本寺は　元小木の性善坊を　明暦二年現地に移し新に一宇を建設したのである　日蓮上人在島四年の間日朗上人は直江津より小木に渡り潛行訪問前後八回の多きに及んだ　其都度御經島の風光明媚を賞嘆されしと言ふ

日朗山　本光寺（畑野村　後山）

◘日朗上人が　元小木を立ち一ノ谷へ向う途中　疲勞の餘り腰打掛けた石を開運石と言うて同寺にある　日朗上人の徒弟日行上人師の後を慕い　千歳茲に御涙の跡を留め一寺を建立した　又こゝに日朗上人の袈裟かけの松と言ふ古木が遺つて居る　日朗坂の舊跡も同附近にある。

法華堂（赤泊村　眞浦）

◘文永十一年三月十四日　日蓮聖人　日朗上人御一行は澁手鹽谷崎より乘船　元小木に至り性善坊に休憩　風待ちして　それより眞浦に一泊翌十五日同地より再乘船し歸倉されし開運の靈地である。

御曼陀羅と波題目碑

◘赤泊村　眞浦永井三郎兵衞の家には　日蓮聖人御歸倉の時止宿せられ其除書與へられたる曼陀羅を持傳ふ又解纜の際波上に七字の題目を顯現して今尚波題目の稱あり。

妙法寺（兩津町　湊）

◘日蓮聖人御開運御歸倉の砌　文永十一年三月十五日船中にての御眞筆除波御本尊を奉安し　寛永の初年栖林院日衍上人開創して爾來三百餘年現董二十一世に及ぶ。

長光山　妙圓寺（相川町　下寺町）

◘日蓮聖人　日朗上人兩師の御眞筆不燒曼陀羅二幅は　阿佛坊日得上人の後裔　相川町遠藤伊右衞門氏の寄進である。弘化三年　失火の際　燒落ちた經藏から拾ひ上げると唐錦の表裝は殘らず燒けて居たのに御曼陀羅は少しも損じなかつたと言ふ。

本行寺（松ヶ崎村）

（赤泊村眞浦）

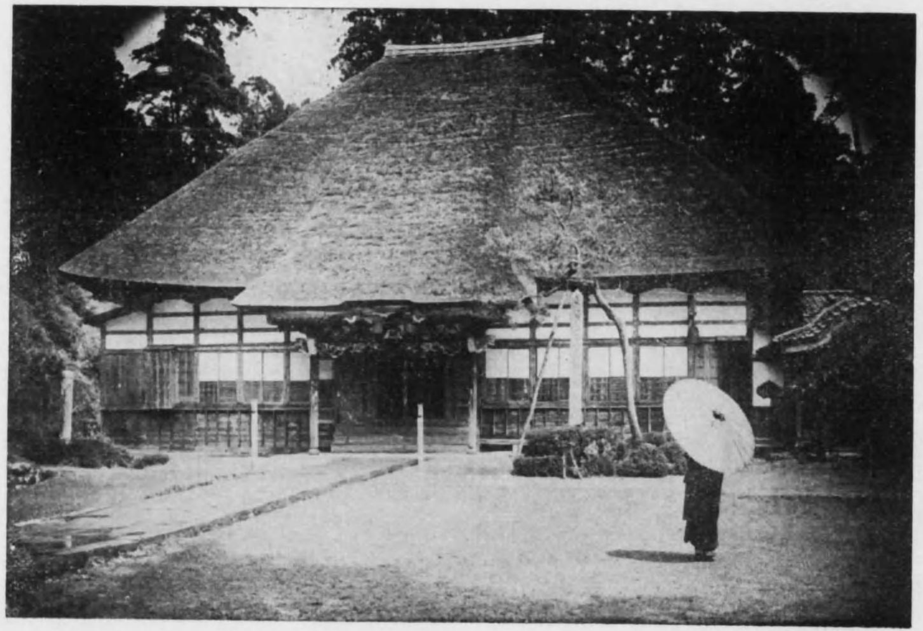
法　華　堂

（松　ケ　崎）

御　樺

御梅堂（小倉村野畑）

根本寺　（新穂村大野）



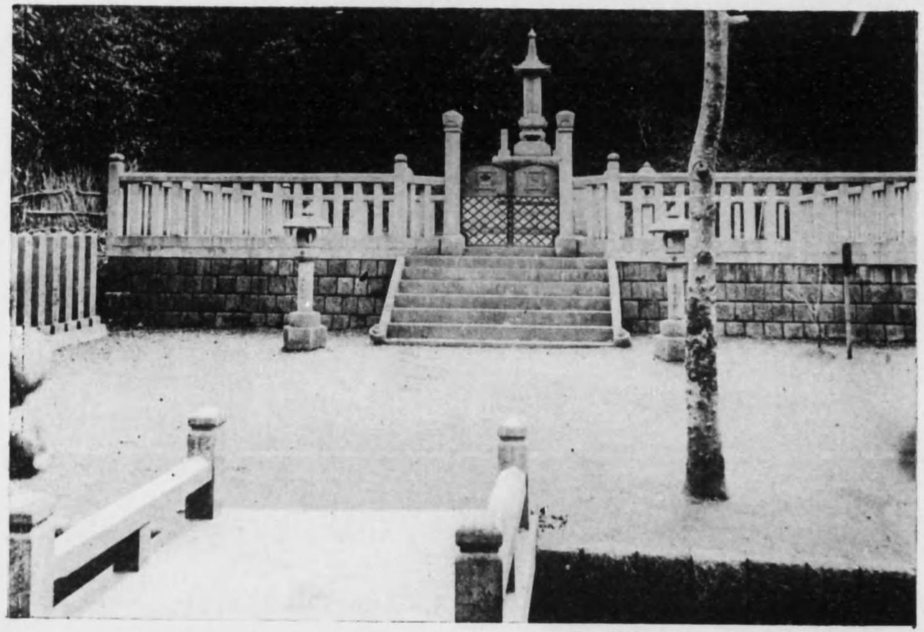
妙　照　寺　（二宮村　一ノ谷）

寺　相　實　（馳矢上　村宮ニ）

（金澤村中興）　御井戸堂

寺　光　本　（泉村澤金）

島　　經　　御　　（木小元　町木小）



跡舊坊善性　（小木町元小木）

(小木町)　安隆寺

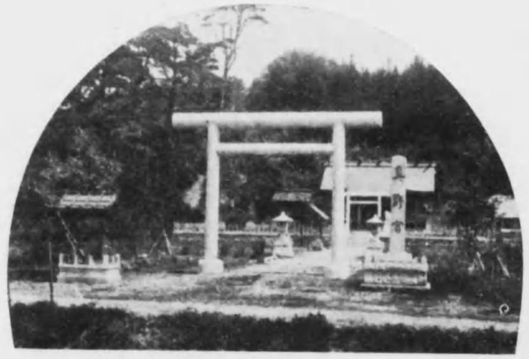
妙　經　寺　（二宮村中原）

妙宣寺　（阿村野眞佛）

寺　　登　　世　　（田竹村野眞）

本光寺　（畑野村後山）

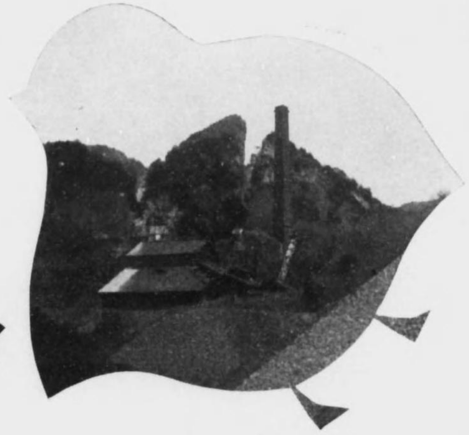
寺　法　妙　（湊町津兩）



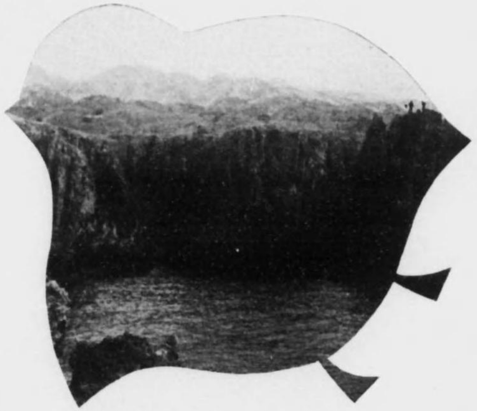
眞野宮

黒木御所蹟

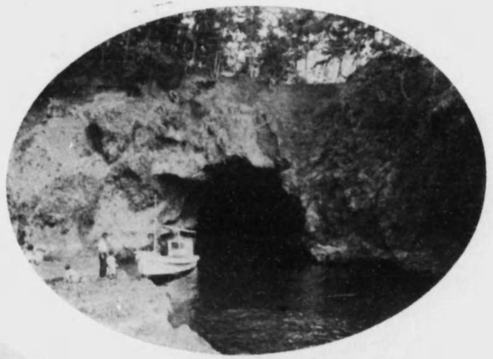
順德天皇
眞野山陵



佐渡鑛山



灣閣尖（泉金）



(小木) 龍宮殿

(小木) 枕石浦

佐渡案内發行

佐渡國小木港

佐渡案内社

電話呼 二一〇番 三四番

營業科目

佐渡特產品陳列卽賣

旅館及自動車紹介斡旋

モーター遊覽船取扱

◉島へ御遊覽の際は是非本社へ御照會竝に御來社下さい

佐渡案内

佐 ヱハガキ●地圖

渡 美術竹製品

み ザル●カゴ

や 無名異燒

げ 鑛石及貝細工品

海產物竝加工品

島つばき油

佐渡國小木港本町通

卸 小賣商 山本商會

振替口座東京四七二三二番

375
754

昭和拾年七月五日印刷
昭和拾年七月十日發行
昭和十二年八月十日再版發行

定價金三十錢
送料金三錢

不許複製

新潟縣佐渡郡小木町大字小木町四一八番地
印刷兼發行者　山本幸作

新潟縣佐渡郡河原田町本町
印刷所　佐渡印刷所
電話六十二番

新潟縣佐渡郡小木町
發行所　佐渡案内社

新潟縣佐渡郡小木町
販賣店　山本商會

終